

平成20年度

第5回

(集団研修)

湿地における生態系・生物多様性と
その修復・再生及び賢明な利用
実施要領

平成20年5月

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース背景、目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制及び運営	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊場所	6
10. その他	7

参 考 資 料

- 付表－1 研修員の業務関連情報
- 付表－2 研修カリキュラム表(案)
- 付表－3 平成 20 年度研修日程(案)
- 付表－4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団) 湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生及び賢明な利用
英文：Group Training Course on Conservation, Restoration and Wise-use of Wetland
Ecosystems and their Biological Diversity

(2) 受入期間

平成 20 年 5 月 13 日 (火) ～ 7 月 2 日 (水) (51 日間)

(3) 技術研修期間

平成 20 年 5 月 19 日 (月) ～ 7 月 1 日 (火) (44 日間)

(4) 定員、割当国

定員：6名 + 1名 (個別型)

割当国：ブラジル、中華人民共和国、ケニア、ネパール、フィリピン、
ウガンダ

個別型：マレーシア

2. コース背景、目的

ラムサール条約および生物多様性条約では、湿地生態系の保全、その生物多様性の保全について各国施策の積極的な履行を惹起するとともに、その自然の資源の賢明な利用および変容する湿地環境の修復・再生への取り組みについても勧告している。開発途上国においてもラムサール条約および生物多様性条約における湿地の保全とその生態系・生物多様性の維持およびその修復と再生、さらに湿地における自然資源の賢明な利用手法についての要請が高まっている。

3. 到達目標

- (1) 湿地環境およびその生物多様性についての調査手法およびデータベースの活用について理解する。
- (2) ラムサール条約にかかわる理念、知識、情報、その履行のための施策を理解する。

- (3) ラムサール条約登録湿地等および野生生物生息地の生態的変容にかかわる修復・再生について理解する。
- (4) 湿地およびその自然資源の賢明な利用を理解する。
- (5) 湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生および賢明な利用についてのアクション・プランを作成することができる。

4. 研修プログラム

(1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. 研修カリキュラム（付表-2 参照）

イ. ジョブレポート（以下 J/R）発表会

(7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできること、できないことを明確に示す意見交換の場とする。

(4) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の3点について主に発表する。

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか
- b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか
- c. この研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン（以下 A/P）発表会

(7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として利用する

(イ) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（A/P）を発表する（必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容などについての記述する）。

(2) 使用言語 英語

5. 研修員参加資格要件

当該コースに関わる募集要項（General Information）（以下 G. I.）記載条件

- (1) 職歴： 湿地生態系や生物多様性保全、生態系の修復・再生、自然資源の賢明な利用等の施策にかかわるもの。中央政府あるいは地方政府レベルの中堅行政担当者（技術者含）
- (2) 職歴： 3年以上8年以下
- (3) 年齢： 28歳以上38歳以下
- (4) 学歴： 大学卒業程度
- (5) ハードなフィールド研修のできる体力があり、女性については妊娠していない者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) TOEFL CBT 200点（PBT 578点）以上に相当する英語能力を有すること
- (3) 心身ともに健康なこと
- (4) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制および運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下 JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、釧路国際ウェットランドセンター（以下 KIWC）に研修に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

(1) JICA 帯広

- ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
- イ. 研修の評価
- ウ. 研修実施予算の執行管理
- エ. G. I. および研修実施要領等の作成
- オ. その他

(2) KIWC

- ア. 研修日程表の調整・作成
- イ. 講師、見学先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

(4) 研修監理員

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

- ア. 研修に係る関係者間の連絡調整
- イ. 通訳業務
- ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

研修コースの到達目標（1頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握

イ. 個々の研修員の質問書

ウ. JICAによる評価

(3) 評価会

研修終了時に研修員が提出する質問書（JICA 所定の様式）の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、KIWC が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日直後に JICA 東京国際センター（以下 TIC）で実施する。ブリーフィングでは、JICA 業務およびコース概要の説明、研修員登録、パスポート・ビザの有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

TIC で実施し、日本の社会・歴史・文化・政治・経済・教育などの日本事情の紹介を目的とする。

(3) 日本語講習

希望する研修員は、TIC で簡単な日常会話程度の語学力修得を目的とする日本語講習を受けることができる。

ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション日程

日 程	内 容
5月14日(水)	ブリーフィング
5月15日(木)	ジェネラルオリエンテーション 午前 講義「日本の社会と日本人」 午後 講義「日本の経済」
5月16日(金)	日本語講習

9. 研修・宿泊場所

(1) 研修実施機関

ア. 環境省自然保護局 野生生物課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2

Tel : 03-3582-3351 Fax : 03-3581-7090

環境省は、公害規制、自然保護、野生生物保護に関する環境行政全般の企画調整を担当する政府機関である。自然環境局は、環境省の部局の一つであるが、その主たる機能は、日本の自然環境の調査、自然公園／保護地域の設立・管理、野生生物の保護管理等である。

イ. 釧路国際ウェットランドセンター (KIWC)

〒085-8505 北海道釧路市黒金町7-5 釧路市環境政策課内

Tel : 0154-31-4594 Fax : 0154-23-4651

KIWC は、ラムサール条約釧路会議で高まった湿地の価値への認識や、その保全と適正

利用への関心を継続し、釧路地域の湿地などをフィールドとする国際的な活動を展開することによって、地域としての国際協力を推進し、もって地域の活性化を図ることを目的として設立された。KIWC は次の 2 点を基本方針とする。

- ・ 釧路館内のラムサール条約登録湿地関係市町村全体で取り組む。
- ・ ウェットランズ・インターナショナル（国際湿地保全連合）およびラムサール条約事務局などの協力により、国際的事業展開を図る。

(2) 宿泊施設

釧路ロイヤルイン ほか

所在地：〒085-0018 北海道釧路市黒金町 1 4 丁目 9 番 2 号

Tel：0154-31-2121 Fax：0155-31-2122

10. その他

(1) 修了証書

この研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 開発教育支援

開発教育とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、貧困問題や環境問題など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小中学校の教育現場で実施されている教育をいう。JICA はこの開

発教育の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小・中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター

〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2

TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250

URL : <http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro>

平成20年度(集団)「湿地における生態系・生物多様性保全とその修復・再生及び賢明な利用」コースカリキュラム表(案)

(hour)

到達目標	科目	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
湿地環境及びその生物多様性保全についての調査方法及びデータベースの活用について理解する。	リモートセンシングを活用した渡り鳥保護	2				東京大学大学院	リモートセンシング技法を活用して渡り鳥のモニタリング手法を理解する。	リモートセンシング技法を活用したフライウェイ調査
	日本の湿地保全行政	2.5				環境省	日本の湿地保全行政を理解する。	日本の湿地保全行政施策
	日本の生物多様性保全行政	2.5				環境省	日本の生物多様性保全行政を理解する。	日本の生物多様性保全行政施策
	生物多様性の保全	4		1		生物多様性センター	日本の生物多様性に関するデータベースの構築手法を理解する。	コンピューターを活用したデータベースの構築と公開手法
	野生生物の保護管理		2.5			猛禽類医学研究所	標識調査等、鳥類保護のための調査手法を理解する。	標識・発信機等を活用した野鳥調査手法
	渡り鳥の保全とモニタリング			1	1	厚岸町水鳥観察館	希少鳥類保護のための管理と普及啓発の手法について学ぶ。	モニタリングカメラを活用した管理手法と普及啓発
	亜熱帯湿地の生物多様性に配慮した普及啓発		2		1	やんばる自然塾	亜熱帯の野生生物の保護管理・普及啓発を学ぶ。	亜熱帯海岸の野生生物保護と普及啓発の取り組み
野生生物の保護		1		1	西表島野生生物保護センター	亜熱帯の絶滅のおそれのある野生生物の保護管理を学ぶ	イリオモテヤマネコの保護と管理手法	
ラムサール条約に関わる理念、知識、情報、その履行のための施策を理解する。	ラムサール条約	2.5				自然環境研究センター	ラムサール条約の理念を理解する。	ラムサール条約の今日的課題
	湿地保全の地域の取り組み	2				釧路国際ウエットランドセンター	地域レベルでの湿地の保全・修復の取り組みを学ぶ。	地域における湿地保全と修復の取り組み
	湿地環境の賢明な利用	1		3		谷津干潟自然観察センター	ラムサール湿地の保全と賢明な利用手法を学ぶ。	谷津干潟の保全と賢明な利用手法
ラムサール条約登録湿地等及び野生生物生息地の生態的変容に関わる修復・再生について理解する。	ラムサール湿地の保全		4			釧路国際ウエットランドセンター	地域レベルでのラムサール湿地の保全と普及啓発の取り組みを学ぶ。	釧路湿原(キラコタン岬・塘路湖周辺)の保全と普及啓発
	移入種の管理と湿地の修復 伝統芸術を活用した湿地修復の試み	2	4	3		京都嵯峨芸術大学 2 大覚寺嵯峨御流華道総 事務所	伝統文化における生物多様性保全手法と湿地の修復を学ぶ。	大覚寺大沢池の修復・再生活動、華道
	湿地の修復・再生事業	2				環境省釧路自然環境事務所	釧路湿原における自然・湿地再生行政を学ぶ。	釧路湿原における自然・湿地再生行政施策
	地域の湿地保全の取り組み	1	4		1	霧多布湿原トラスト	地域の人々による湿地環境の保全の取り組みについて学ぶ。	霧多布湿原トラストによる霧多布湿原保全の取り組み
	地域における湿地保全と普及啓発		2			釧路国際ウエットランドセンター	ラムサール湿地における生態学的変化とモニタリング手法について学ぶ	ラムサール湿地の生態学的変化のモニタリング手法(温根内)
	住民参加による湿地再生の取り組み	1		4		行徳野鳥観察舎	地域の人々による湿地環境の修復・創出の取り組みを学ぶ。	行徳野鳥観察舎を中心とした地域の人々による取り組み
	野鳥の保全と普及啓発		2		1	初田牛鳥獣保護区	地域の人々による絶滅のおそれのある鳥類保護の取り組みを学ぶ。	シマフクロウ保護のための地域の人々の取り組み
	文化史跡における湿地修復の試み			2		釧路国際ウエットランドセンター	文化史跡における湿地生態系再生の試みを学ぶ。	文化史跡(平安神宮)における湿地の機能再生の試み
	湿地及びその自然資源の賢明な利用を理解する。	サンゴ礁の保全行政 サンゴ礁の生物多様性保全		4			国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター 船浮海運	サンゴ礁生態系を理解し、その賢明な利用と保全の取り組みについて学ぶ
亜熱帯湿地保全の普及啓発の取り組み			6			マヤグスク・エコアドベンチャーズ	亜熱帯湿地における生物多様性の普及手法	ビナイサーラ湿地における生物多様性の普及啓発手法
亜熱帯湿地の保全と普及啓発		1		1		湿湖水鳥湿地センター	亜熱帯地域における湿地保全のための普及啓発の取り組みを学ぶ。	センターの普及啓発活動
湿地の生物多様性保全(里山の保全)				4		東京情報大学	里山の生物多様性とその保全の取り組みを理解する。	里山水田地帯における生物多様性の保全と普及啓発
生物多様性の賢明な利用				5		釧路国際ウエットランドセンター	富士山の多様性を紹介する遊歩道について理解する。	富士山御中道と青木ヶ原自然遊歩道の設置
地域における普及啓発			1	1		細岡ビクターズラウンジ	地域における湿地保全普及啓発の取り組みを学ぶ。	細岡ビクターズラウンジの取り組み
マングローブ湿地林の保全に配慮した普及啓発			6			やんばる自然塾	亜熱帯湿地におけるエコツーリズムプログラムを学ぶ。	マングローブ湿地におけるエコツーリズムプログラムの運営
湿地の賢明な利用			6		1	鶴居村どさんこ牧場	地域における湿地環境の賢明な利用手法を学ぶ。	在来種どさんこを活用したエコツアーの運営
湿地保全のための環境教育		1		4		1 霧多布湿原センター	地域における湿地環境を活用した環境教育を学ぶ。	霧多布湿原センターにおける環境教育プログラム
地域における湿地の修復				2		1 北海道立標茶高校	教育現場における環境教育プログラムについて学ぶ	湿地保全のための実践的な取り組み・研究事例
湿地保全と環境教育(ネイチャーラフト)			2		1	塘路湖エコミュージアムセンター	ラムサール湿地における環境教育を学ぶ。	環境教育プログラムの事例
湿地保全のための普及啓発		2				春国岱原生野鳥公園 ネイチャーセンター周辺 遊歩道	地域における湿地保全普及啓発の取り組みを学ぶ。	春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター遊歩道の設置
野生生物に配慮した湿地環境の利用			3			厚岸町水鳥観察館 曙カヌー	野生生物に配慮したエコツアープログラム運営を学ぶ。	厚岸町水鳥観察館の取り組み 別寒辺牛川カヌー
湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生及び賢明な利用についてのアクション・プランを作成することができる。		アクションプラン作成指導/発表会		5		5	釧路国際ウエットランドセンター	本研修を生かした帰国後のアクションプランを作成する。
その他	ジョブレポート発表会		5					
	学校訪問			5				

平成20年度「湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生及び賢明な利用」研修日程(案)

月日	曜日	前/後	プログラム	担当	会場	宿泊地
5月13日	火	来日				東京
5月14日	水	終日	ブリーフィング			東京
5月15日	木	終日	オリエンテーション			東京
5月16日	金	終日	日本語講習			東京
5月17日	土	休日				東京
5月18日	日	休日				東京
5月19日	月	午前	環境省表敬	OBIC・KIWC・環境省	環境省本庁舎	東京
		午後	JICAブリーフィング・カリキュラムガイダンス	OBIC・KIWC	TIC	
5月20日	火	終日	ジョブレポート発表会	OBIC・KIWC・環境省	TIC	東京
		午前	日本の生物多様性保全行政	環境省自然環境局	TIC	
5月21日	水	午後	日本の湿地保全行政	環境省自然環境局		東京
		午前	リモートセンシングの活用	樋口広芳(東京大学院)		
5月22日	木	午後	ラムサール条約	菰田 誠(自然環境研究センター)	TIC	東京
		終日	湿地環境の賢明な利用	谷津干潟自然観察センター	谷津干潟自然観察センター	
5月23日	金	終日	湿地環境の賢明な利用	谷津干潟自然観察センター	谷津干潟自然観察センター	東京
5月24日	土	休日				東京
5月25日	日	移動	東京→富士吉田			富士吉田
5月26日	月	終日	生物多様性の賢明な利用(富士山・鳴沢・青木ヶ)	KIWC	富士山御中道・鳴沢・青木ヶ原	富士吉田
5月27日	火	終日	生物多様性の保全	生物多様性センター	生物多様性センター	富士吉田
5月28日	水	移動	富士吉田→京都			京都
5月29日	木	午前	文化史跡における湿地修復の試み	KIWC	平安神宮	京都
		午後	休日			
5月30日	金	終日	移入種の管理と湿地の修復	真板昭夫(京都芸術大学)	大沢池(大覚寺)・亀笑亭	京都
5月31日	土	終日	伝統芸術を活用した湿地修復の試み	大覚寺嵯峨御流華道総司所	大覚寺	京都
6月1日	日	休日				京都
6月2日	月	移動	京都→沖縄(那覇)→沖縄(名護)			沖縄名護
6月3日	火	終日	亜熱帯湿地の生物多様性に配慮した普及啓発	やんばる自然塾	東村慶佐次川河口域	沖縄名護
6月4日	水	終日	マングローブ湿地林の保全に配慮した普及啓発	やんばる自然塾	東村慶佐次川流域	沖縄名護
6月5日	木	終日	移動: 沖縄(名護)→沖縄(那覇) 亜熱帯湿地の保全と普及啓発 移動: 沖縄(那覇)→沖縄(石垣)		漫湖水鳥湿地センター	石垣島
6月6日	金	午前	サンゴ礁の保全行政	サンゴ礁モニタリング研究センター	サンゴ礁モニタリング研究センター	西表島
		午後	移動: 石垣島→西表島			
6月7日	土	午前	サンゴ礁保全に配慮した普及啓発(グラスボート)	船浮海運(池田)	西表島、祖内湾	西表島
		午後	亜熱帯における野生生物保護(イリオモテヤマネコ)	西表島野生生物保護センター	西表島野生生物保護センター	
6月8日	日	終日	亜熱帯の生物多様性保全と賢明な利用	マヤグスク	ピナイサーラ湿地(上部)	西表島
6月9日	月	終日	亜熱帯の生物多様性保全と賢明な利用	マヤグスク	ピナイサーラ湿地(下部)	西表島
6月10日	火	終日	移動: 西表島→石垣島→東京			東京
6月11日	水	午前	湿地保全の地域の取組	KIWC	TIC	東京
		午後	アクションプラン作成指導	KIWC	TIC	
6月12日	木	終日	住民参加による湿地再生の取り組み	行徳野鳥観察舎	行徳鳥獣保護区	東京
6月13日	金	終日	湿地の生物多様性保全	ケビンジョート(東京情報大学)	千葉県印西市	東京
6月14日	土	休日				東京
6月15日	日	移動	東京→釧路			釧路
6月16日	月	午前	釧路市表敬	KIWC	釧路市役所	釧路
		午前	湿地の修復・再生事業	環境省釧路自然環境事務所	釧路市交流プラザさいわい	
6月17日	火	午前	移動: 根室→厚岸 野生生物に配慮した湿地環境の利用(カヌー)	厚岸水鳥観察館・曙カヌー	厚岸水鳥観察館	厚岸
6月18日	水	終日	移動: 厚岸⇄浜中 湿地保全の地域の取組	霧多布湿原トラスト	霧多布湿原トラスト	厚岸
6月19日	木	終日	移動: 厚岸⇄浜中 湿地保全のための環境教育	霧多布湿原センター	霧多布湿原センター	根室
6月20日	水	午前	野生生物の保護管理(初田牛鳥獣保護区)	山本純郎(日本鳥類標識協会)	初田牛鳥獣保護区	釧路
		午後	湿地保全のための普及啓発	春国岱ネイチャーセンター周辺	春国岱ネイチャーセンター	
6月21日	土	午後	ホームビジット	KIWC	ホストファミリー宅	釧路
6月22日	日	休日				釧路
6月23日	月	終日	学校訪問	OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
6月24日	火	午前	ラムサール湿地の保全	KIWC	釧路湿原キラコタン岬	釧路
		午後	地域における普及啓発	細岡ビジターズラウンジ	細岡ビジターズラウンジ	
6月25日	水	終日	地域における湿地環境の賢明な利用(ホースバックハイク)	鶴居どさんこ牧場	釧路湿原	釧路
6月26日	木	午前	湿地保全と環境教育	塘路湖エコミュージアムセンター	塘路湖エコミュージアムセンター	釧路
		午後	地域における湿地の修復	標茶高校	標茶高校(15時30分より)	
6月27日	金	午前	地域における湿地保全と普及啓発	KIWC	湿原展望台・温根内木道	釧路
		午後	野生生物の保護管理	猛禽類医学研究所	釧路湿原野生生物保護センター	
6月28日	土	夕方	市民交流会	OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
		午前	アクションプラン作成指導	KIWC	釧路市交流プラザさいわい	
6月29日	日	休日				釧路
6月30日	月	終日	アクションプラン発表会/評価会	OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
7月1日	火	午前	閉講式	OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
		午後	移動: 釧路→東京			
7月2日	水	帰国				東京

年度別受入実績表

1. 応募/選定(受入)人数

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	累計
応募数	7名	16名	13名	9名	9名	54名
受入数	7名	6名	6名 (個別型を含む)	6名	7名 (個別型を含む)	32名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	累計
(アジア地域)						
ラオス		●				1名
ネパール		○			○	2名
タイ		●				1名
インドネシア			●			1名
モンゴル			●(個別型)			1名
中華人民共和国				●	●	2名
ベトナム			●			1名
フィリピン				○	○	2名
マレーシア					○(個別型)	1名
(中東欧地域)						
スロバキア	●					1名
ルーマニア	●●					2名
(中近東地域)						
オマーン		○				1名
(中南米地域)						
ニカラグア	●					1名
エクアドル	○					1名
パラグアイ						
コロンビア		●				1名
ドミニカ共和国			●			1名
メキシコ				●		1名
ブラジル					○	1名
(アフリカ地域)						
ベナン	○					1名
タンザニア		○				1名
ザンビア			○			1名
ケニア				○	●	2名
ウガンダ				○○	●	3名
(太平洋州)						
ソロモン			○			1名
パプアニューギニア	○					1名
計	6ヶ国 7名	6カ国 6名	6カ国 6名	5カ国 6名	7カ国 7名	30カ国 32名